

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな



広報を、おもしろく

伝えたい情報を必要としている人に届ける「広報」。発信した情報が届いた時、教えてくれてありがたい感謝と新しい出会いが生まれます。今号では市民団体の広報を支援するみんなで地域づくりセンターの取り組みを紹介します。

広報をみんなで学び合う



連絡先

四街道市
みんなで地域づくりセンター
住所：四街道市大日 396
電話：043-304-7065

「子どもに読んでほしい会報誌なら、今子どもに流行しているものを知っておくといいかも」

「写真の雰囲気ひとつでイベントの内容まで良いものに見えるから、写真選びは慎重にした方がいいね」

センターが年に3回開催している「広報担当者によるおもしろ広報会議」は、市民団体の広報担当者十数名が集まって意見交換をする場です。担当者ならではの具体的に鋭い意見が飛び交います。

普段は一人で悩みながら作業に当たっていることも多い広報担当者ですが、この会議では団体の枠を超えどうしたら効果的に広報ができるのかを考えます。

「誰でも知っていると思っていたことが、自分の団体以外の人から

はわかりにくい、ということに気がつきました」

「一人では、どちらのチラシが良いか迷っていたので、会議で他の参加者に配る目的と対象を聞かれて、良い方を決めることができました」
他団体から意見をもらうことで、自分の作ったものを違う視点から考える機会にもなっています。

さらに当センターでは要望の多い課題については、専門の講師による講座を開催しています。昨年度は「文章の書き方講座」、今年度は「団体の魅力が伝わるキャッチコピーを作ろう」を行いました。向上したいスキルをより深く学び、団体に戻って生かしてもらうことが目的です。

学び合える場がある

広報は手段。大切なことは「どんな目的で、誰に、何を、どう伝えたいのか」。会議の中ではお互い質問を繰り返しながら、この点を確認し合います。さまざまな視点から問われることで、広報をする目的がはっきりし、そのためにやるべきことも

明確になってきます。

また、各自が作成中のチラシを持ち寄り、作業をしながらアイデアをブラッシュアップできる実践の回もあり、パソコンの使い方講座が始まることもあります。この会議に参加後、チラシの見やすさが格段に改善した団体もありました。

団体同士が横につながり、楽しく学び合える「広報担当者によるおもしろ広報会議」はいつでも参加をお待ちしています。



おもしろ広報会議から生まれた
「はじめての広報 攻略本」

おもしろ広報会議での 事例を紹介



事例その1

子どもがのびのびと遊べるイベントのチラシに、子どもの笑顔と緑がきれいな自然の写真が大きくレイアウトされている。このチラシで集客したい武田さん

—これは何のチラシですか？

武田 子どもが泥だらけになって思い切り遊べるイベントです

—子どもの笑顔が輝く素敵なチラシだと思いますが、泥だらけになって遊んでほしい、にしては、チラシが美しすぎませんか？

武田 自分の子どもも連れて行きたいと思ってほしくて、あえて子どもの笑顔中心のチラシにしました

—せっかく泥遊びできるのなら、それがもつと伝わる写真を選ぶことが必要では？今のチラシでは森の中で穏やかに過ごすイベントだと思われませんか？

武田 …たしかにそうですね。汚れてもいいので子どもの好きに遊んでほしいです。どろんこOK！ですが、このチラシではそれが伝わらないかもしれませんね

事例その2

野外保育の活動内容のリーフレットを配布したい高島さん

高島 来年度の参加者募集のために、リーフレットをつくりました。幼稚園には配るのですが、ほかに配れる場所を知りませんか？

—募集する子どもの年齢は？

高島 1歳半からの活動なので、未就園児を募集したいのです

—それなら、幼稚園に入る前の子の保護者に配る必要がありますね

高島 そうなのですが、ほかに思い浮かなくて…

—未就園児なら、市の子育て支援センターにも、リーフレットやチラシは置いてもらえると思います

高島 支援センター！そんな場所に置けるとは知りませんでした。さっそくお願いしてきます

—一人で考えるのではなく、広報担当者それぞれがお互いの経験をシェアしたり、違う視点で見直すことで、問題点がわかり改善できます。

顔が見える広報

広報で大切なことは「どんな目的で、誰に、何をどう伝えたいのか」。このポイントをおさえながらも、時には情報がうまく伝わらないときがあります。

どんな情報なら興味をもつのか、会議で話し合われたことがありました。信頼する人からの情報は躊躇なく受け取ることができる。そして受け取った情報の背景に相手の顔が見えると、ただの文字情報としてのお知らせよりも、ずっと安心感が大きいという意見に多くの広報担当者が賛同しました。

文字だけの情報に顔の見える信頼がプラスされることで、チラシに書ききれなかった魅力まで伝わるのです。そう考えると広報も人とのつながりの上に成り立っていると言えます。広報に信頼関係をプラスすることで、受け取る人は増えていくのです。

広報は人と人、人と団体や活動などをつなげます。いろんな団体や活動を知るきっかけをつくり、人と出会うワクワクは広報から始まるのです。

広報っておもしろい！

ピックアップ

「1日で身につく広報講座」



9月27日（木）、センターでは2種類の広報講座を開催しました。どちらも紙と鉛筆を使い、団体の良さや活動の魅力を整理・発信するツールをつくることが目標です。講師はNPOなど公益組織のロゴやリーフレットなど数多くの広報物を手がけるグラフィックデザイナーの林田全弘（まさひろ）さん。市内外から魅力ある広報をしたいという皆さんが延べ51団体73人参加しました。

午前は「団体の良さを伝えるキャッチコピーをつくろう」。一番重要なのは、何のため、誰のために作るのかを決めておくこと。林田さんは伝えたい目的によって「ビジョン型」「理念型」「説明型」「魅力型」「Let's型」に分類しています。

さらに具体的なコツに挙げたのが以下の3点①平易な文字を使う②団体名と同じことを言わない③動詞は入れず余韻を残す。他事例をアレンジする発想も必要と多くの団体例も示しました。

午後は「魅力が伝わる三つ折りパンフレットをつくろう」。作成に必要な情報の整理方法を学び、具体的にラフ案を考えるまでの手順を学びました。

どちらの講座も参加者や団体がじっくり考えワークする時間が多く、林田さんから丁寧で的確なアドバイスを受けることができました。同時に、改めて自分たちの活動を見つめ直す機会にもなりました。

お知らせ

みんなで地域づくりセンターでは、これから地域で何かしたい人、すでに活動している人をサポートするプログラムや講座を実施しています。

お問い合わせは、
みんなで地域づくりセンターへ
お電話ください。

Tel. : 043-304-7065



みんなで地域づくり
キャラクター
くりんちゃん

みんなの学食「りんごとはちみつ」がオープンします

今年度センターで開催した地域づくりサロン「みんなでおしゃべりできる居場所をつくろう」の参加者が中心となって始まった、みんなの学食「りんごとはちみつ」。孤食の子どもを減らしたい、中高生の居場所を増やしたいとの思いから来年4月からの正式オープンを目指します。

「りんごとはちみつ」は中高生ならだれでも、夕食のカレーが200円で食べられます。4時から8時半までは出入り自由で好きに過ごせるので気楽に利用してください。もちろん大人も大歓迎、小学生は保護者同伴でおでかけください。

12月4日、2月5日、3月5日（すべて火曜）にプレオープンしています。ボランティアも募集中です。

開店 : 毎月第1火曜日 16:00—20:30（18:00—19:00は食事タイム）

場所 : 日替わりシェフの店さくらそう

食事代 : 中高生200円 大人400円

編集後記

テレビっ子の私は、映像と音で入ってくる情報は印象に残りやすく、決め手もそこにあった。テレビCMで映画の予告編を見てから期待を込めて劇場へ行き、期待以上の時もあれば、CMの方がおもしろかったぞ、なんていう時も。

広報担当になって伝える側になった時、写真1枚の使い方や伝わり方が違うことを知り、広報はおもしろいなあ、と作成した紙面の感想を団体のみなさんに聞くようになった。広報物を作る時、みんなでワイワイ作業しながら作ったものは、伝わり方も違うような気がする。（チョコ）

四街道市みんなで地域づくりセンターについて

四街道市みんなで地域づくりセンター
（四街道市シティセールス推進課分室）

開館日時 : 火—金 9:00—20:00 / 土 9:00—17:00

休館日 : 日・月・祝日・年末年始

所在地 : 四街道市大日396 四街道市文化センター1階

Tel. : 043-304-7065 Fax. : 043-422-7051

E-mail : info@minnade.org

Web : http://minnade.org/

みんなde No.18

編集・発行 : 四街道市みんなで地域づくりセンター

発行日 : 平成30年12月1日 発行部数 : 4,000部

配架場所 : 市役所、公民館、図書館など センターのHPからもダウンロードできます。

表紙の写真 : 自団体の作成するチラシやリーフレットを手にした広報担当のみなさん

ホームページ



フェイスブック

